

# 奉祝 天皇陛下御即位三十年



御出幣式

# 鹽竈十属

発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号  
 志波彦神社  
 鹽竈神社 社務所  
 電話 〇二二三六七-一六一(代)  
 FAX 〇二二三六五-五五三〇  
<http://www.shiogamajinja.jp/>



鹽竈会は、「しおがまさま」を祭神とする神社で組織されている。その会員の青森市城ヶ倉神社では、当社から移植された塩竈桜が満開の六月十日に例祭が斎行された。ここでは六月に花が咲き神威が新たになるのであった。その四日後、名古屋市で鹽竈会総会が開催された。同市中川区の鹽竈神社、天白区の塩竈社、岡崎市の六所神社と会員各神社を参拝した。三社とも当社から勧請され安産信仰を柱に「しおがまさま」の神威を発揚されている。特に、六所神社は徳川家康公の安産の神として知られている。御由緒には、第三十七代齋明天皇の勅願により奥州塩竈六所明神を勧請し創立されたと伝わり、降って松平氏が三河入国以来、代々崇敬厚く天文十一年(一五四二)十二月、岡崎城にて竹千代君(徳川家康公)ご誕生の折は産土神として安産が祈願されたところ。更に三代家光公は、六所大明神は東照大権現降誕の地にある霊神なりとして社殿を造営。この権現造の本殿・幣殿・拝殿が現在は国の重要文化財で、屋根葺替と塗替の修復大工事を昨年終えていた。絢爛豪華な姿から、建立当時の徳川幕府の権威の大きさを思い、家康公の産土神・安産の神としての「しおがまさま」の神威もまた赫々として輝きを放っていたことがうかがえた。青森そして名古屋・岡崎を訪ね、気候風土を超えて広大無辺なる「しおがまさま」の御神威を畏むばかりであった。

# 平成の大御世三十年目にあたり

天皇陛下の御即位三十年にあたり、前号につづき御足跡をお言葉や御製で拝します。

## 〈第二回〉

平成十一年より平成二十年

平成十一年  
一月七日

昭和天皇十年式年祭の儀

御製

父君の 思出おほき 大相撲  
年の始めの 土俵に見入る

四月十日

天皇・皇后両陛下  
御成婚四十周年

御製

四十年を とともに過ぎしし  
我が妹と あゆむ朝に

十一月十二日

天皇陛下御在位十年  
記念式典(於国立劇場)

お言葉

「(前略)昭和天皇の崩御によつて、深い悲しみの中に皇位を継承して以来、国民の幸せを常に願われた天皇の歴史に思いを致し、天皇が日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴であるとの憲法の規定を象頭に置き、国と国民のために日々の務めを果たしてきました。(中略)これからも、我

が国の人々が、世界の人々と和し、協力しつつ、共によりよい将来に向かって力を尽くしていくことを切に希望いたします。

ここに記念式典を催されたことに深く感謝し、国民の幸せと世界の平和を祈ります」

平成十二年  
六月十六日

香淳皇后崩御

御製

あまたたび 通ひし道を  
この宵は 亡き母君を

たづねむと行く

平成十三年  
四月二十三日〜二十六日

阪神・淡路大震災復興状況  
ご視察

御製

六年の 難きに耐へて  
人々の 慕きたる街

みどり豊けし

十月十二日〜十四日

第五十六回国民体育大会秋季大会ご臨場併せて地方事情ご視察のため宮城県に行幸啓

御製

開幕の 集団演技  
はじまりて 宮城の空に

虹かかりたり

平成十四年  
(兼山御用邸)

年まさる 二人の孫が  
みどり児に  
寄りそひ見入る 仕草愛らし

千歳越え あまたなる品  
守り来し 人らのしのびて

校倉あふぐ

平成十五年  
一月十八日 ご手術

御製

入院の 我を氣遣い  
訪ひくれし 思ひうれしく  
記帳簿を見る

十一月十六日

奄美群島日本復帰五十周年  
記念式典にご臨席

御製

復帰より 五十年経るを  
祝ひたる 式典に響く  
鳥唄の声

## お言葉

「(前略)震災から十年を経て、被災地においてもこの震災を経験しない人々の割合が増してきていると聞いています。私どもは震災の悲惨さを忘れず、我が国の、そして世界の人々に災害の実情を伝え、一人でも多くの命が不慮の災害から守られる安全性の高い社会を築いていかなければなりません(後略)」

十月五日

紀宮殿下「告期の儀」

御製

嫁ぐ日の はや近づきし  
吾子と 共にもくせい香る  
朝の道行く

平成十八年  
三月七日

三宅島復興状況ご視察

御製

ガス噴出 未だ続くも  
この島に 戻りし人ら  
喜び語る

九月六日

悠仁親王殿下ご誕生

御製

我がうまご 生れしを祝ふ  
日高路の 人々の声  
うれしくも聞く

平成十九年  
八月八日

新潟県中越沖地震被災地を  
ご慰問

御製

被災せし 新潟の人は  
いかにあらむ 暑さ厳しき  
この夏の日に

十月二十九日

福岡県西方沖地震被災地を  
ご慰問

御製

なるにより 被災せしすら  
我ら迎へ 島鷹太鼓の撥  
掲げ待つ

十一月二十七日

日本遺族会創立六十周年記念式典ご臨席

お言葉

「(前略)先の戦争のことが次第に人々の心から遠くなつていく今日、戦争による深い悲しみを経験した遺族の持つ、戦のない平和な世界実現への強い希求を、戦後に育つた人々に伝えていくことは、誠に大切なことと思えます(後略)」

平成二十年  
六月十四日

岩手・宮城内陸地震発生

御製

災害に 行方不明者の  
増しゆくを 心痛みつつ  
北秋田に聞く

次号では平成二十一年から平成三十年の天皇陛下のご足跡を拝します。

**鹽竈神社例祭 七月十日**

来る七月十日(火)、鹽竈神社例祭が斎行されます。

古くは陸奥国司が神事をにない、江戸時代には仙台藩主伊達家が大神主として祭祀を司りました。当日は午前十時より斎行され、祭典中に特殊神事「御出幣式」が執り行われます。

御出幣式は、別宮・左宮・右宮各御本殿内に奉安されている御神幣を権宮司以下所役三名が奉戴し、七対の御神宝とともに楼門前まで進み、まず南面し伊勢の神宮に向かい



流鏝馬神事 (7月8日)

左右左の順に振り奉り、さらに北面して同様の所作を行います。これは国家の安泰と国民の平和を祈るもので、かつては「御朝参神事」とも称し、筆頭彌宜家のみが相伝する秘事でした。

また例祭奉祝行事として行われる流鏝馬神事は、七月八日(日)午後二時から斎行されます。そのほか神賑行事として、市内小・中学生による書道展が絵馬殿にて開催されます。

**宮城県無形民俗文化財 藻塩焼神事**  
七月四日・五日・六日

鹽竈神社例祭に先立ち、市内本町に鎮座する末社御釜神社では、御祭神塩土老翁神ゆかりの特殊神事「藻塩焼神事」が斎行されます。

「藻刈神事」七月四日  
七ヶ浜町花淵浜沖に神事船を出し、ホンダワラ(神馬藻)と呼ばれる海藻を採取する神

**塩竈みなと祭**  
七月十六日 海の日

七月十六日(月・海の日)、「やしろと魚のまち」塩竈を挙げての祭典「みなと祭」が斎行されます。

戦後の混乱の中始まったみなと祭は、今年で七十一回となります。当日は志波彦神社・鹽竈神社御両社の大神輿が市内を巡幸ののち、御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」に奉安され、日本三景松島湾を舞台に大小百隻からなる供奉船団を従え海上を渡御します。



海上渡御

事です。「水替神事」七月五日  
松島湾釜ヶ淵より満潮時の海水を汲み、古い神釜の水を海に返して入れ替える神事です。「藻塩焼神事」七月六日  
海水を煮詰めて塩を取り出す神事です。古代の製塩方法の一端を伝える貴重な神事として昭和五十四年に宮城県無形民俗文化財に指定されました。

神事で調製された塩は引続



藻塩焼神事

**曲木神社例祭**  
八月一日

八月一日(水)、市内新浜町籬島に鎮座する末社・曲木神社の例祭が斎行されます。

籬島は国の名勝「おくのほそ道の風景地」の一つに指定され、日本遺産『政宗が育んだ「伊達」な文化』の構成文化財にもなっています。

前日夕刻には前夜祭が斎行され、島の対岸では演芸大会が開催されます。籬島には毎月一日の月次祭祭と例祭の日のみ渡ることが出来ます。

# 氏子崇敬会 春季大祭齋行

平成三十年度表彰者

(敬称略)

五月十三日、氏子崇敬会春季大祭が鹽竈神社左右宮において鈴木雄一会長以下約二百八十名の会員参列の下齋行されました。

本年は崇敬会設立四十周年の佳節を迎え、特別会員継続表彰に加え、永年にわたり役員(世話人以上)として御尽力頂いている方々が表彰されました。また、崇敬会より神社第一駐車場に「外灯」が奉納されました。

今年の記念品は「一陽来復(いちようらいふく)」と墨書された干支色紙でした。

「一陽」冬から春になる兆しのこと、「来復」再びやってくることを。悪い事が、回復してよい方向に向いてくることの意味です。



奉納された外灯

## ◇四十年表彰

阿部 久壽・横田 善三郎  
佐藤 仁一郎・鈴木 花子  
佐々木 信之・海老 さつき

## ◇三十年表彰

我妻 豊・引地 利男  
及川 義一・亀山 國治  
高橋 嘉熙・宮本 きくよ  
佐藤 健太郎・渡部 義衛  
瀧井 正巳・笹原 正児

## ◇二十年表彰

佐藤 義雄・佐藤 百治  
鈴木 金善・庄司 隆  
佐藤 武志・熱海 勲  
板橋 兵悦・千葉 慎一  
菅野 勇造・二瓶 林吉

## 御神田御田植祭齋行

五月十二日、御神田において御神前にお供えする神饌米の苗を植える御田植祭が齋行されました。当日は晴天に恵まれ、氏子少年団やボーイスカウトなど総勢二百四十五名が参列しました。

これから四カ月、農耕と殖

## ◇十年表彰

安倍 文雄・齋藤 善彌  
小林 克己・櫻井 不二男  
和田 忠・高橋 一夫  
菅野 新治・和泉 昭彦  
今野 恭一・津田 とし子  
佐藤 今朝吉・佐藤 三郎  
山下 靖雄・鈴木 博  
小泉 清太郎・鈴木 正敏  
藤井 潤・岩金 稔

## ◇十年表彰

成澤 勲・近藤 美代子  
永浦 わき子・稲葉 芳晴  
狩野 正明・小玉 周男  
小松 進・高橋 康男  
尾形 良一・野村 竹市  
佐藤 進也・八木 義雄  
白幡 邦友・色川 義彦  
我妻 睦生・菅野 千代志  
遠藤 一男・齋藤 榮樹  
佐藤 久・阿部 弘志

## ◇十年表彰

清水 惇・加藤 正明  
大友 千久人・鎌田 秀雄  
横田 重夫・猪股 喜一  
今野 正人・丹治 典子  
狭間 識・島山 幸男  
草刈 良治・丹野 欣胤  
飛田 昇・佐藤 重雄  
高橋 良節・山田 俊二  
橋本 泰廣・大久保 忠孝  
長田 孝介・高橋 國四郎  
吉田 司・東海林 松志  
渡辺 多喜子・鈴木 功  
佐浦 俊一郎・小幡 一雄  
降矢 久・小林 信男  
石森 千賀子・佐藤 瑞子  
安斎 政司・辺見 徳郎  
塗 清一・今野 欣也  
庄司 直美



外灯の銘板

## 夏越大祓式齋行

六月三十日、祓所において夏越大祓式が齋行されました。大祓式とは、日々の生活の中で身に受けた罪や穢を祓い流し、清浄な心身に戻り生活を営むための神事です。

参列者それぞれが切麻を手自身を祓い終えた後、志波彦神社前に舗設された茅の輪をくぐり、残り半年の厄災消除を祈念しました。



御田植祭

講社だより

四月から五月にかけて、各地の鹽竈講社祭が多くの講員参列のもと齋行されました。

各講社の永年継続講員に対し表彰がなされましたので、御芳名を紹介いたします。

(敬称略)

仙台千人講大祭

鹽竈桜が満開をむかえた四月十五日、及川勇講長以下三十七名が参列して齋行されました。

◇四十年表彰

林造園(株) ・ 武田 幸三

高橋 理一郎

◇二十年表彰

佐々木 勝・佐藤 博昭

菊地 伊津子・光永 あや子

安齋 多恵子・菊地 宏幸

◇十年表彰

山田 重男・松坂 宏造

鎌田 実起・鈴木 俊一

釜石講社祭

花まつりと同日の四月二十二日、津田緋沙子講長以下二十四名が参列し齋行されました。

◇四十年表彰

千田 きよ子・溝口 正光

◇三十年表彰

阪本 伊久子・秋尾 貫三

◇十年表彰

福士 正直

佐々木 政吉・阿部 幸夫

新潟亀田講社祭

新緑が眩しい五月二十日、遠路新潟県から熊倉清弘講長以下十八名が参列し齋行されました。

◇五十年表彰

榎並 一也

◇四十年表彰

田村 松男

◇三十年表彰

立川 博史・高橋 正義

◇二十年表彰

荒井 勲

釜石神恩講

◇三十年表彰 高木 康成  
◇二十年表彰 菅原 辰美

養成所通信

四月六日、桜の蕾が膨らみ始めたなか、神職養成所の入所式が行われ、二名が神職を志し門をくぐりました。

神前にて入所の旨を奉告したのち、大講堂にて式典を挙行。新入生は宣誓文を読み上げ、所長の訓示や来賓の方々からの激励のお言葉を頂戴し、父兄の見守る中、新たな一歩を踏み出しました。  
入所式後は、朝の禊、祭式・雅楽の集中講義が実施され、

五月からは祭典奉仕・社頭実習・奉製作業等に取組んでいます。

○新入生

〔普通課程Ⅱ類一年〕

細越 大誉(岩手県)

八重樫 凜(岩手県)

また同日付で左記生徒が二年生に進級しました。

○進級生

〔普通課程Ⅱ類二年〕

金澤 空(岩手県)

佐竹 崇史(長野県)

寺島 成美(山形県)

山崎 尚範(青森県)

敬神婦人講だより

平成三十年度総会

四月十七日、社務所大講堂において講員百十四名参加のもと平成三十年度総会が開催されました。

前年度講務・決算報告、今年度事業計画・予算の承認がなされました。

議事終了後、近藤祐宜による「フィンランド・エストニア宗教事情」の講話の後、懇親会となりました。

大年寺墓参

並びに研修旅行実施  
六月二十日、講員らによる

大年寺伊達家墓所への墓参が行われました。

当日は当社に縁の深い第四代藩主伊達綱村公(青山公)の命日にあたります。



平成三十年度総会

巫女 礼儀作法講習、神楽舞温習

四月十一日に伊達家伯記念会の仙台藩作法指南役である池田峯公先生を講師にお招きし、来客者の接遇などにおける作法を終日にわたり御指南頂きました。

また五月十四日・十五日、同二十三日・二十四日の四日間、巫女の神楽舞の温習が行われました。

藤波祥子先生(亘理郡八重垣神社宮司)の指導のもと、当社独自の一森の舞・海人の舞、また浦安の舞、悠久の舞に十一名の巫女らは熱心に取り組みました。



神楽舞の温習

# 鹽竈神社門及び廻廊 保存修理工事竣工奉告祭



装いを新たにした門・廻廊

平成二十八年八月から始まりました門及び廻廊の保存修理工事がこの度竣工し、去る四月二十四日に竣工奉告祭が斎行されました。  
平成二十六年に完了した「第十八回鹽竈神社式年遷宮」では別宮・左宮・右宮各御本殿の檜皮屋根葺替えを始め、各拜殿・廻廊・神饌所の銅版屋根の葺替えや、漆の再塗装の保存修理工事が行われました。しかし、門及び廻廊は彩色



感謝状の贈呈

の修理がなされなかったため、傷みが目立つこととなり、文化庁の「美しい日本探訪のための文化財建造物活用事業」の補助により、同事業の第一号として保存修理工事が実施されました。  
祭典には、市長を始め責任役員・総代、工事に携わった丸重建築設計事務所、(株)小西美術工藝社、(公財)文化財建造物保存技術協会の関係者が参列し、工事関係者に感謝状が贈呈されました。

## 法華三郎信房刀匠より鉾二口奉納

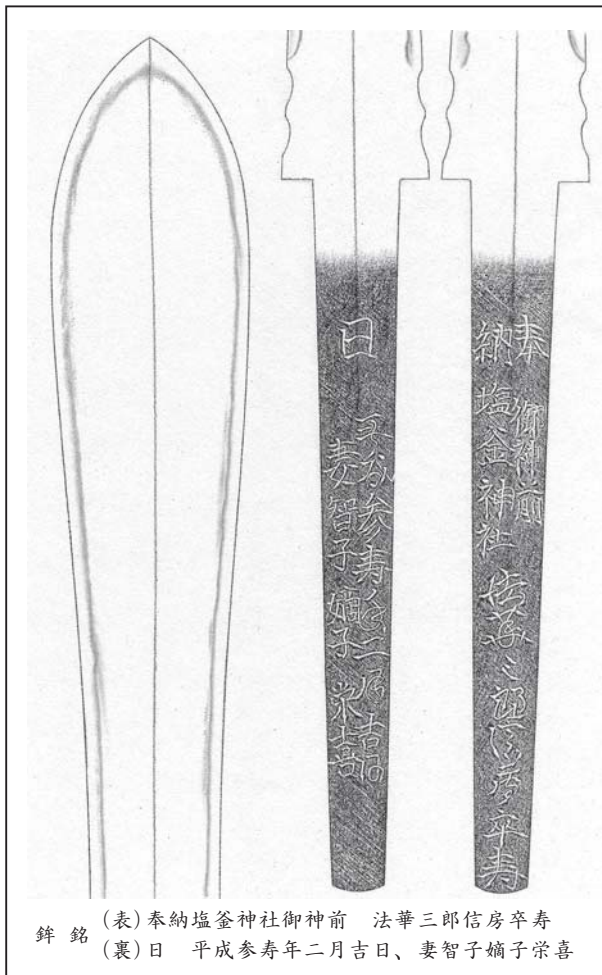
この度、宮城県大崎市松山で御活躍される法華三郎信房刀匠より鉾(ほこ)二口が奉納され、去る六月二日に奉納奉告祭が斎行されました。

奉告祭には法華刀匠と御家族が揃って参列し、祭典後に神納証と記念品が贈呈されました。  
奉納の鉾は、伊勢神宮の式年遷宮に際し別宮である月詠宮に奉納された御神宝の影打

で何れも刃長一尺、日・月の一双となる作品です。これらは、博物館に移管し展示公開の予定です。

〈作風〉

両鑄・両刃造。先張って平肉で地沸付き、刃は小沸出来の直刃わずかにのたれごころ、処々にほつれなどを交え、つぶらな沸付く。茎は先栗尻、



鉾銘 (表) 奉納塩釜神社御神前 法華三郎信房卒寿  
(裏) 日 平成参寿年二月吉日、妻智子嫡子栄喜

奉納された鉾(日・月一対のうち日)



奉告祭後別宮拜殿にて

鑢目筋違に化粧鑢かかる。奉納のため目釘孔なし。



# 国家安泰 五穀豊穰 家内安全

祭事暦 (七月から九月まで)

毎月

- 一日 朔日 祭
- 一日 曲木神社月次祭
- 六日 御釜神社月次祭
- 十日 鹽竈神社月次祭
- 二十九日 志波彦神社月次祭

七月

- 四日 藻刈神事
- 五日 水替神事
- 六日 藻塩焼神事
- 七日 御釜神社例祭
- 七日 牛石藤鞭社例祭
- 八日 流鍋馬神事
- 十日 鹽竈神社例祭
- 十六日 みなと祭

八月

- 一日 曲木神社例祭

九月

- 二十九日 志波彦神社遷座記念祭  
並びに氏子崇敬会秋季大祭

# 安産祈願 海上安全 大漁満足

## 参拝記録

三月から五月にかけて当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします。(敬称略)

三月

- 二日 仙台千人講話人会 八名
- 十四日 群馬県神社庁前橋赤城支部・同総代会 一三六名
- 二十七日 宮城県神道青年協議会教養研修会 二十名

四月

- 九日 東京都・大國魂神社奉賛会 一〇三名
- 十五日 留守家第三十代当主・留守浩一氏
- 十八日 日本酒と食の文化を守る会 三十名
- 舞の道 十三名

五月

- 十日 岩沼市・竹駒神社 村田守広宮司
- 十四日 巨理郡・八重垣神社 藤波祥子宮司
- 十八日 群馬県神社庁高崎榛名支部氏子会 三十四名
- 二十日 神奈川県・鶴岡八幡宮 吉田茂穂宮司
- 二十日 鶴岡婦人会 三十三名
- 二十三日 鶴岡八幡宮崇敬会「槐の会」 三十名
- 名古屋市・鹽竈神社総代研修旅行 六名

## 文芸欄

追憶の影があやつる除虫菊  
夏露の渦の中なる舟瀧り  
湧水の影の重なる山の藤  
電風の糸尻目玉夏さざす  
潮風の段畑白く除虫菊  
一樹より棚に長短藤の花  
平凡にこそ幸せ除虫菊  
風薫る救急医師のスニーカー  
いわれ聞く馬放島の夏帽子  
タぐれの鹽竈ざくら気高くて

- 太田 サチコ
- 渡辺 智賀
- 佐藤 みね
- 神野 礼モン
- 辻田 よし子
- 大友 セツノ
- 今田 須美子
- 横田 みち子
- 上田 由美子
- 山田 桃晃

## 敬神功労章・ 有功章受章

去る四月二十七日付をもちまして本社本庁より当社の責任役員・総代の方々に敬神功労章・有功章が授与されました。

敬神功労章とは、神社の役員・総代ほか氏子崇敬者のうち功績顕著な方々を対象として授与されるもので、特別功労章・功労章・有功章が定められています。

この度は、五名が功労章、四名が有功章を受章いたしました。

ここに受章された方々を御紹介いたします。(敬称略)

### 功労章

責任役員 阿部 勘九郎

総代 鈴木 雄一

郷家 照夫

### 有功章

総代 志賀 重信

阿部 仁

水野 暢大

鈴木 健史

## 第一駐車場参拝者 トイレ整備

この度多くの参拝者が利用する第一駐車場のトイレが洋式に整備されました。

観光庁の訪日外国人受入環境整備緊急対策事業の補助を受けたもので、参拝者が使用しやすくなりました。



工事竣工後のお様子

## 人事異動

新任(五月一日付)

巫女 稲富 千愛

阿部 すみれ

佐藤 美月

## 赤巻

保存修理工事が竣工した門及び廻廊が色鮮やかに参拝者を迎えています。

社報一七四号をお届けします。(慶)